

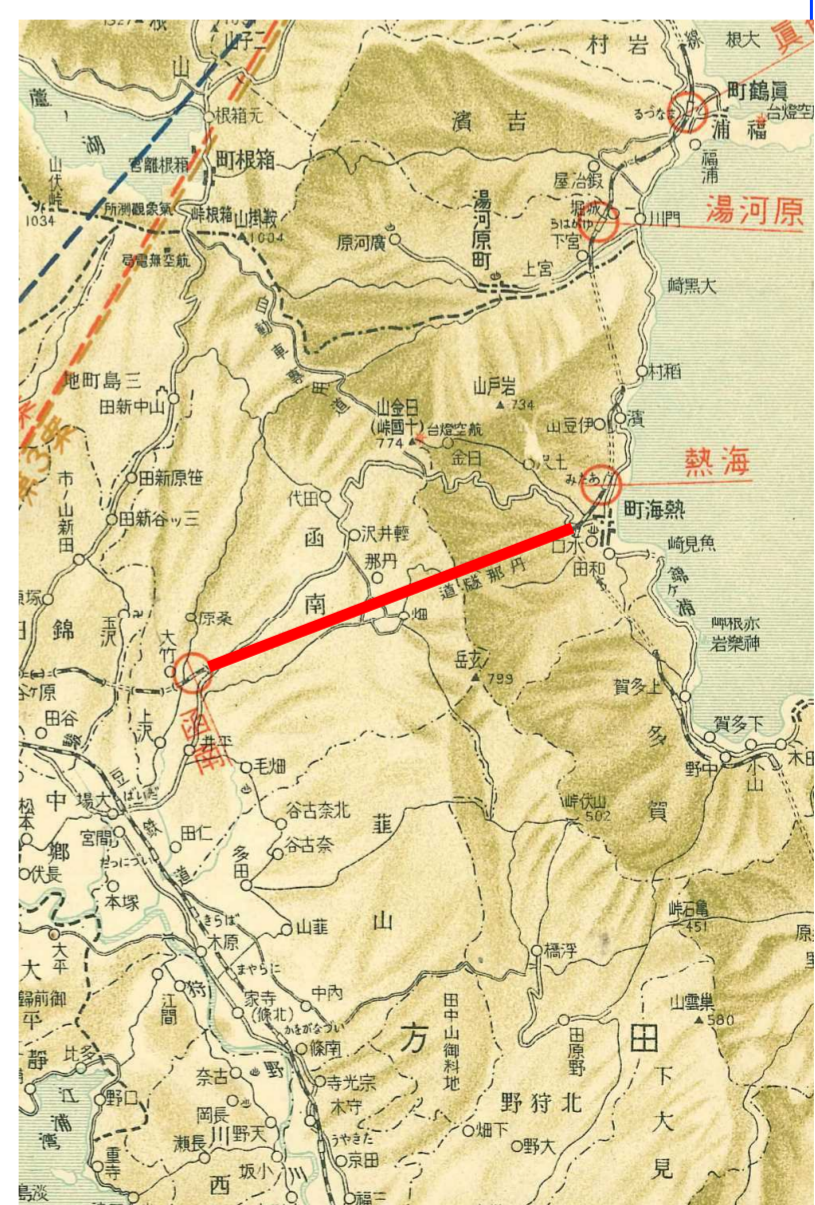
知事定例記者会見

令和3年10月26日

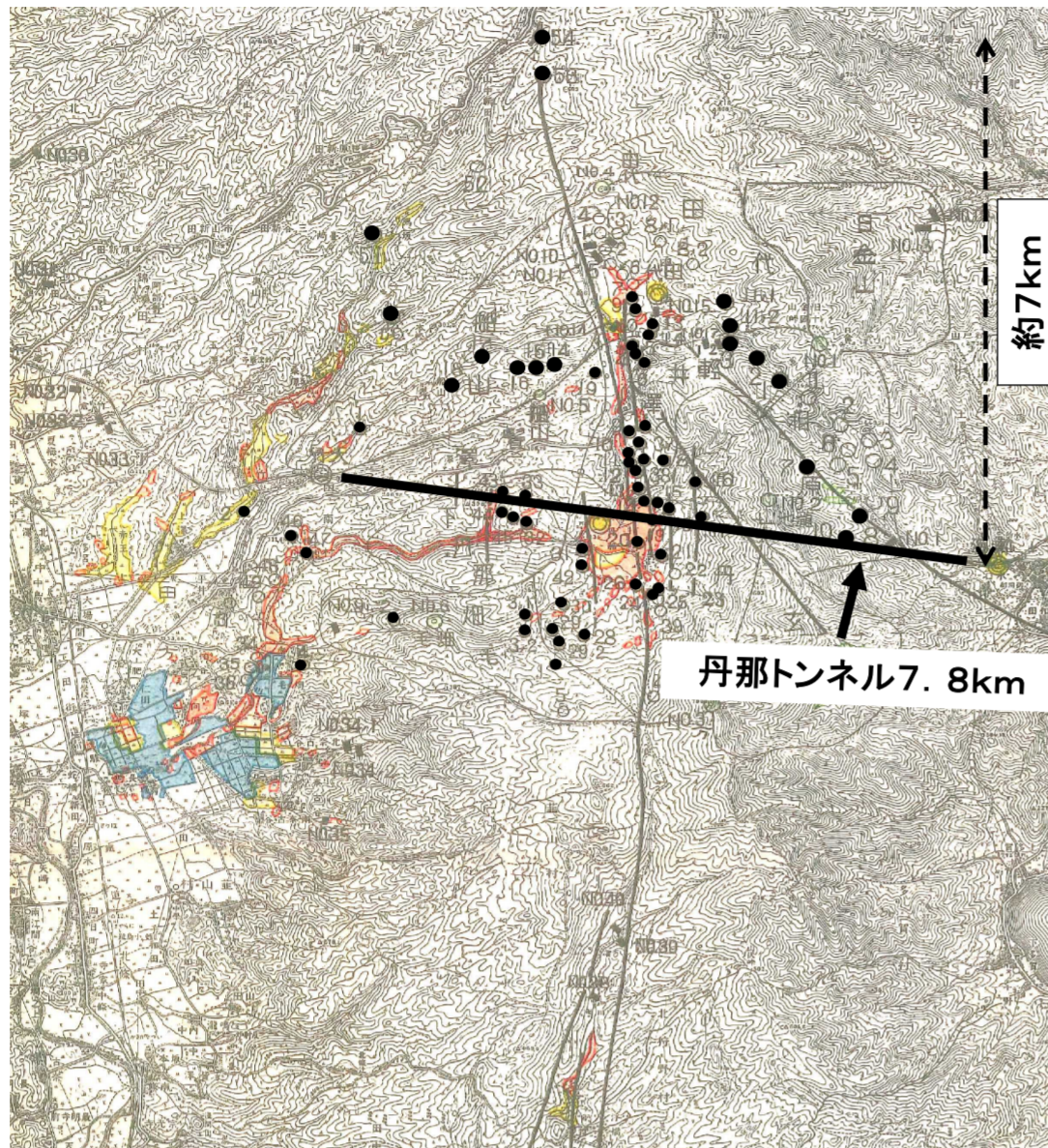


丹那トンネル① 湧水被害の経緯

西暦	和暦	内容
1918	大正7年	丹那トンネル着工
1924	大正13年	秋頃 湧水減少に気づく 以後被害は順次拡大
1927	昭和2年	鉄道省が調査開始 応急救済開始
1933	昭和8年	丹那トンネル貫通 根本救済を実施



丹那トンネル② 湧水枯渇

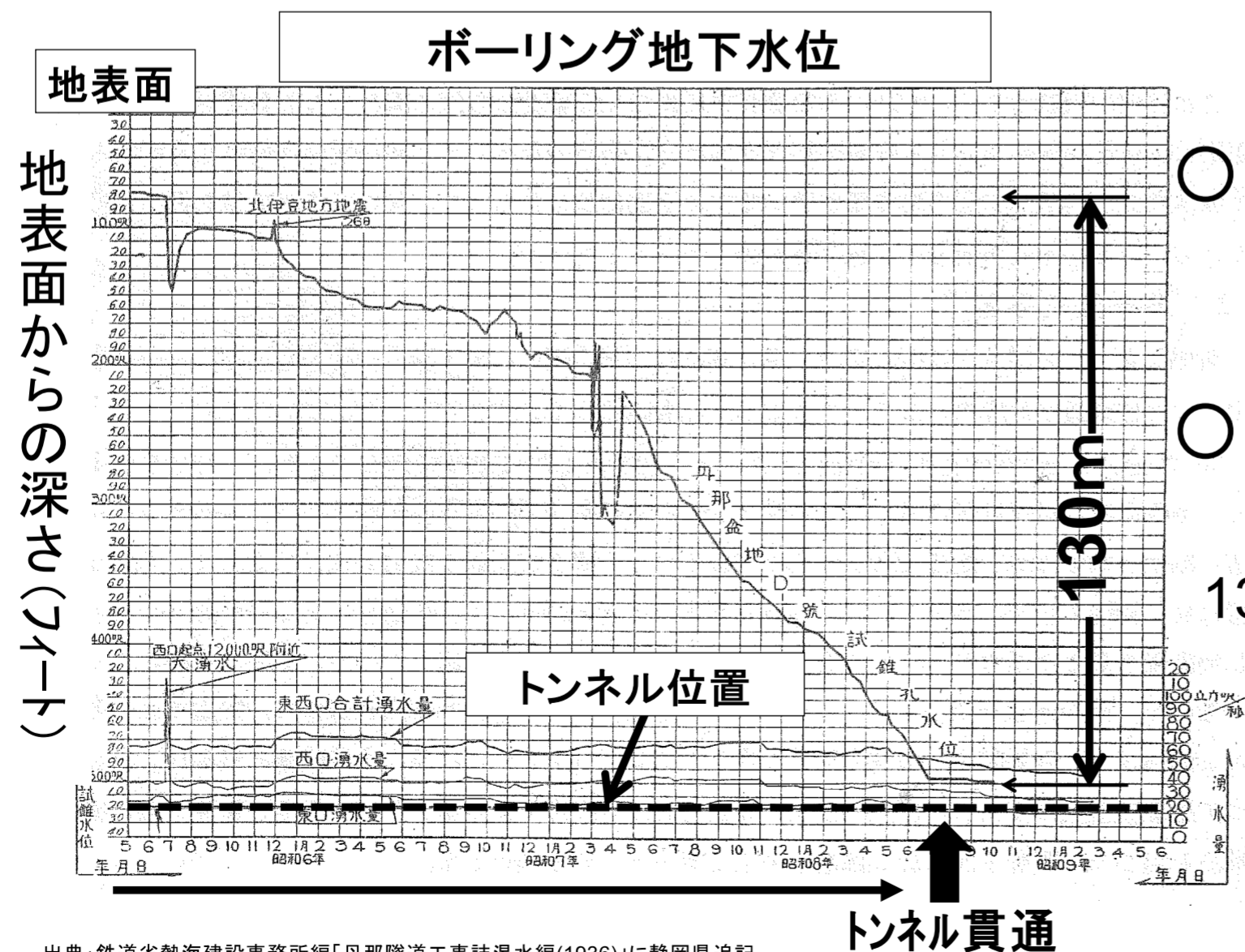


- 湧水枯渇66箇所
- 断層線に沿ってトンネルから離れた場所でも枯渇



出典：鉄道省熱海建設事務所編「丹那隧道工事誌湧水編(1936)」に静岡県追記

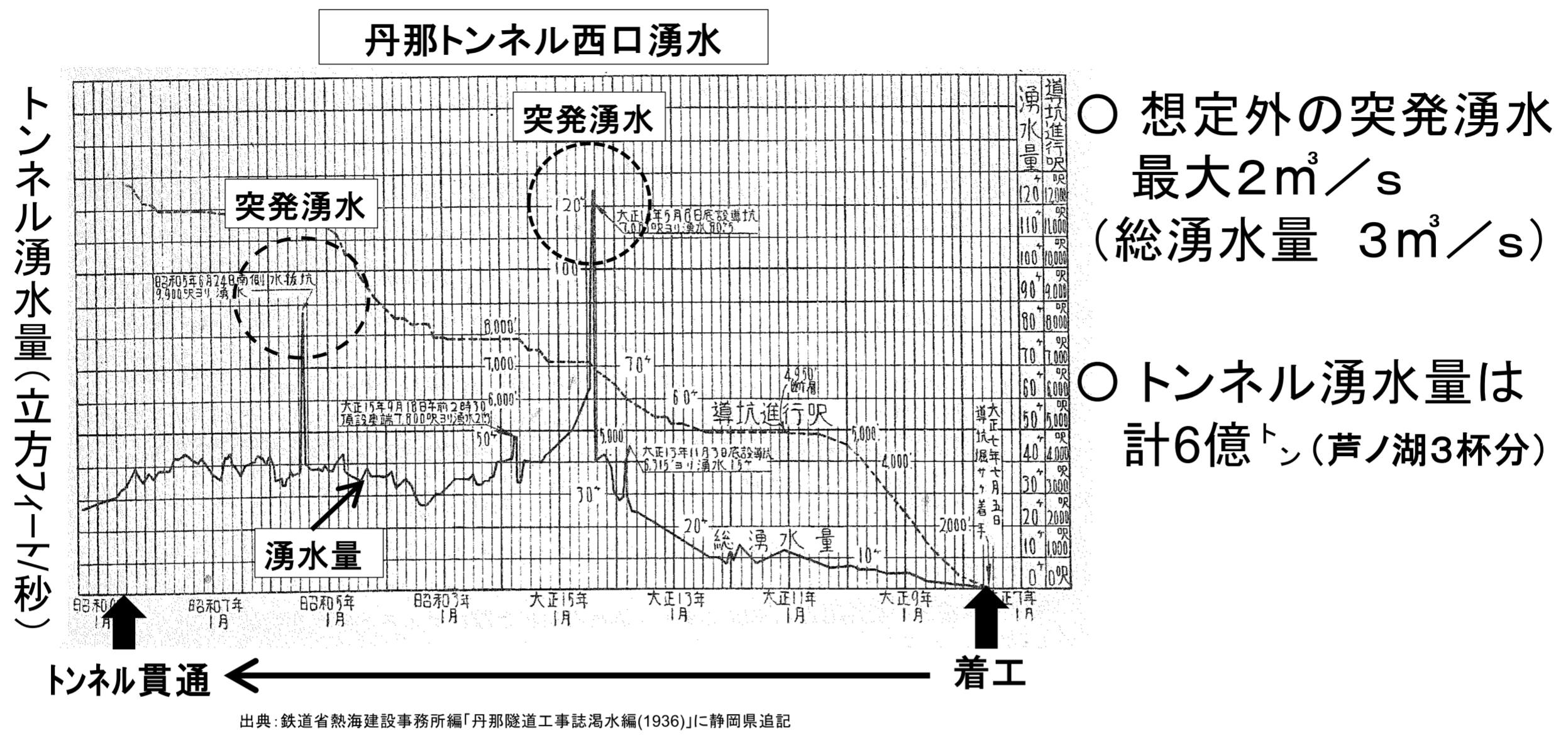
丹那トンネル③ 地下水位の低下



- トンネル貫通まで不規則に低下
- ついにはトンネル位置付近まで低下
130m低下：昭和5年5月～8年8月

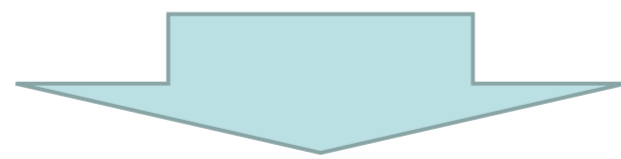
出典：鉄道省熱海建設事務所編「丹那隧道工事誌湧水編(1936)」に静岡県追記

丹那トンネル④ 突発湧水の発生



丹那トンネルの経験を踏まえた リニア南アルプストンネル工事への懸念

- 想定外の突発湧水が発生した場合
⇒ **想定以上のトンネル湧水の県外流出が発生**
- 広範囲での湧水枯渇や地下水位低下
⇒ **生態系への影響は計りしれない**



教訓: 失われた水は戻らない

- 「トンネル湧水の全量戻し」は当然
- 代償、モニタリングではなく、まずは影響回避・低減が必要

参考 昭和59年10月 函南町長

「多くの人は、水は再び復すると期待していた。
失った水はもどらない。

「お金で解決せず、(トンネル)湧水をポンプアップして丹那に戻す方法を講ずべきだったと思います。」

出典：丹那トンネル開通・函南駅開業50周年記念
「丹那トンネル ー偉業と歴史ー」

